



# 鶺鴒 戸

発行者兼編集者  
鶺鴒 戸 神 宮 社 務 所

印刷所  
西 日 本 印 刷

ごあいさつ

宮司 佐師 朝規

残暑御見舞  
申し上げます。



暑さ殊に酷しき折から皆様方には  
益々御健勝の御事と御慶び申し上げます。

当神宮におきましては御本殿が日南市・県の御協力御支援によりまして三月に宮崎県文化財保護条例第四条第一項の規定に基づき県指定有形文化財として、指定されました事は誠に慶ばしく四月には御神前に指定奉告祭を斎行して関係者の方々へ御披露する事が出来ました。境内には国指定の天然記念物をはじめ、県指定の鶺鴒戸千畳奇岩。市指定の数々の文化財が集中する景勝の地で、此の度の御本殿有形文化財の指定により、愈々責任の重大さを痛感致し此の貴重な御本殿を役員一同協力して護り、後世に伝へ神宮の発展と神徳の高揚に努めたき所存でありますので、一層の御力添賜ります様御願ひ致します。

尚、第三神符守札授与所は老朽に加へ塩害も甚だしく破損致しましたので移転改築致し、其の跡地は参拝者の休憩所として新築致し面目を施す事が出来ました。之もひとえに皆様方の御支援の賜と篤く御礼申し上げます。

末筆ながら皆様方の御健勝と御多幸を祈念し御挨拶と致します。



# 例祭齋行と奉祝行事

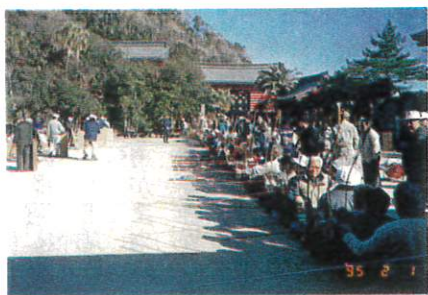
二月一日午前十一時より、当神宮例大祭が猷幣使黒岩龍彦氏（県神社庁々長）御参向の元、厳肅かつ盛大裡に齋行された。

当日は絶好の晴天にも恵まれ、責任役員、氏子、崇敬者総代を始め、四神宮（英彦山、霧島、鹿見島、宮崎）の各宮司、県内外神社、官公衛関係、日南市、北郷町、南郷町、各地区々長、全国各地の崇敬者の参列を賜った。

祭典には、旧職員田中克宜君により舞楽“抜頭”が始めて奉納され、厳かな中にも華やかさもそえられた。奉祝行事として儀式殿前広場では、第二十三回鵜戸神宮奉納四半的弓道大会が開催され、八六チーム、三〇二名が参加し競技が行われた。

又、二月五日の日曜日には、第四十二回剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会が開催され、一五三チーム、約一三〇〇名の参加の元、終日熱戦が繰り広げられた。

尚、四半的大会、剣道大会の成績は次の通りである。（敬称略）



## 〔四半的大会〕

- 〔団体〕  
 ▼①串間②佐土原 ③三財  
 〔個人〕  
 ▼男子①日高副美（住吉）  
 ②坂元利夫（高崎）③長友  
 武志（三財）④大富七郎  
 （服部道場）⑤吉田庄二郎  
 （門川）⑥福田広海（清武）  
 ▼女子①藤木スミ子（新富）  
 ②野崎ハツ子（田野）③林  
 シゲ子（佐土原）④野々垣  
 郁子（同）⑤近藤ツギヤ  
 （南郷）⑥朝倉スガ子（木城）

## 〔剣道大会〕

- 〔男子団体〕  
 ▼一般①宮崎刑務所（宮崎）  
 ②都城自衛隊（都城）③統  
 武館（宮崎）小林市（小林）  
 ▼高校①宮崎日大（宮崎）  
 ②宮崎北（同）③高鍋高校  
 （高鍋）延岡学園（延岡）  
 ▼中学①神武館（宮崎）②  
 清武中学校（清武）③延岡  
 至誠館（延岡）広瀬中学校  
 （広瀬）  
 ▼少年①延岡修道館（延岡）  
 ②朱雀館（宮崎）③神武館  
 （同）誠之館（都城）  
 〔女子個人〕  
 ▼一般・高校①黒木優子  
 （宮崎北高）②津野倫子（同）  
 ③那須麻美子（同）加行千  
 春（延岡学園）



- ▼中学①甲斐寿子（玄武館）  
 ②興柵舞（稲門館）③興柵  
 あゆみ（同）小野圭美（玄  
 武館）  
 ▼小六①佐藤奈津子（通山  
 少剣）②田中歩（束心館）  
 ③井本恵美（貫心館）井上  
 涼子（木脇少剣）  
 ▼小五①天辰美鈴（輝星少  
 年）②金丸百合（玄武館）  
 ③寺原里加（木脇少剣）立  
 本泰子（串間青武館）  
 ▼小四①領家麻奈美（上長  
 飯）②重黒木舞香（光洲館）  
 ③小山美帆（貫心館）山口  
 舞（三股中央）

## 祈年祭齋行

五穀豊穡と国家の安泰を祈る祈年祭が、二月十七日厳肅に齋行された。

当日、午前十一時より宮司以下齋員によって奉仕され、宮司祝詞奏上の後、「浦安の舞」を奏舞。

参列者は今年も実り多き年となるよう祈年して玉串を捧げていた。



## 別当宮司先賢 慰霊祭

去る五月十九日午前十一時より、歴代別当宮司遺族を始め多数の参列者のもと厳かに齋行された。

同祭は神仏合同慰霊祭として執り行なわれており、宮司祝詞奏上の後、潮満寺住職伊勢木俊真氏外僧侶二名が経を奏し、御詠歌などの法要がいとなまされた。



## 第九回シヤンシヤン馬道中唄全国大会 開催とシヤンシヤン馬道中再現

昔は、新婚夫婦がシヤンシヤン馬に花嫁を乗せて当宮へ参拝した。

全国的に愛唱されているシヤンシヤン馬道中唄の全国大会が、去る三月二十五日、二十六日の両日にわたり開催された。

初日は、日南市文化センターで予選が行われ県内外より五六一名が参加、少年青年、壮年、実年、高年の五部門に分かれ競いあった。二日目は会場を鵜戸神宮儀式殿に移し、決勝戦が行われた。

参加者は三味線、尺八、太鼓に合せ日頃鍛えた自慢の喉を披露し、唄が終わるたびに大きな拍手が送られていた。

尚、各部門の入賞者は次の通り。

- （敬称略）  
 ▼少年の部①小倉千春（南郷町）②浜地涼子（日南市）  
 ③小淵華子（宮崎市）  
 ▼青年の部①松勝美（日南



- 市) ②矢野みどり（都城市）  
 ③石津美千加（高千穂町）  
 ▼壮年の部①稲積郁江（日南市）②稲用敦子（宮崎市）  
 ③鈴木ミチ子（日南市）  
 ▼実年の部①永田祐子（熊本県）②山本幸子（北郷村）  
 ③谷口サエ子（日南市）  
 ▼高年の部①宮田禎子（日南市）②野嶋時和（高鍋町）  
 ③汐口恵美子（南郷町）  
 第九回グランドチャンピオンには壮年の部 稲積郁江女史が選ばれた。



又、同大会に合わせて「シヤンシヤン馬道中を再現する会」主催の鵜戸さん詣りも行われ、県内外多数の応募者の中から、山田義治・知子さん（広島県）、塚本達朗・真子さん（福岡県）押川宏幸・美由紀さん（宮崎県）の三組新婚さんが選ばれ、本殿にて正式参拝の後、花嫁が乗った馬の手綱を花婿が引いて境内を一周した。

参拝者も時ならぬこの光景に足を止め、カメラに収めたり一緒に記念撮影をする姿があらちちらで見受けられた。



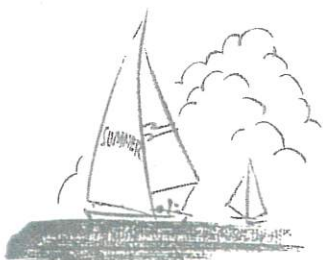


### いさみ太鼓 奉納

五月五日のこどもの日  
恒例の「いさみ太鼓」が御  
本殿・儀式殿前広場に於い  
て、地元の子供達約五十名  
が揃いの鉢巻き、法被姿で  
元氣よく奉納し、鵜戸の大  
神様と祖先の御恩に感謝致  
し、あわせて健康無病息災  
を祈願した。



GW期間中とあって、参  
拝者も多く、一生懸命に太  
鼓をたたく子供達の姿や、  
これに合わせて四体の子供獅  
子の勇壮な舞をしばし足を  
止め盛んにカメラに収めて  
いた。



## 御本殿県有形文化財に指定

三月二十三日、当宮本殿  
が宮崎県有形文化財に指定  
され、四月二十四日奉告祭  
を執り行った。

又、県文化課長江崎富治  
氏より祝辞を賜わった。

この度、鵜戸神宮本殿が、  
宮崎県有形文化財に指定さ  
れましたことに對し、心か  
らお喜び申し上げます。

また、この指定に関して  
調査いただいた鹿児島大  
学・土田教授並びに日南  
市・野邊教育長はじめ関係  
者の皆様に対し、深く敬意  
を表する次第であります。

さて、御承知のように、  
鵜戸神宮は日南海岸国定公  
園のほぼ中心に位置し、神  
宮を含めた鵜戸岬は国指定  
天然記念物「ヘゴ自生北限  
地帯」、県指定天然記念物  
「鵜戸千畳敷奇岩」等が集  
まる景勝地であります。

また、信仰地及び剣法発祥  
の地として、多くの参詣者  
が訪れてきた古い歴史をも  
つた地でもあります。  
今回指定となった鵜戸神  
宮本殿は、岩窟内に建てら



奉告祭

れた神社建築で、全国的に  
も数少ない貴重なものであ  
ります。限りある空間を最  
大限に活かした工法は、往  
時の匠の技と研究心がうか  
がわれ、建築学的にも高く  
評価されております。  
近年、生活にゆとりと精  
神的な豊かさを求め、伝統  
的なものを志向する傾向が  
高まってきております。

鵜戸神宮では、時代を超  
えてその保存に努められ、  
その成果が今回の指定の運  
びに到ったものと考えてお  
ります。  
県としても、「ふるさ  
と文化の高揚」を教育施策  
の柱として掲げ、地域に根  
ざした文化遺産の保護に努  
めて参りますが、鵜戸神宮  
におかれましても、日南市  
民及び県民の文化財として  
今後とも大切に保存いただ  
きますようお願いいたしま

す。最後になりましたが、  
鵜戸神宮並びに本日御列席  
の皆様方の御健勝とますま  
すの御発展を祈念いたしま  
してお祝いの言葉といたし  
ます

平成七年四月二十四日  
宮崎県文化課長  
江崎 富治





# 戦後五十年に際して思う

権祿宜 伊東健治

戦後五十年の節目に当たる今年、新ためて大東亜戦争の残した傷あとを考えた。戦後五十年の起点は敗戦である。

それは大東亜戦争に帰結し、その事によりアジア諸国や日本人に大きな傷あとを残したが、今は忘れさられ、知らされていかない。

知らない事実や間違った歴史認識が常識となつていくことを、六月九日衆議院で採択された国会決議の二ユースの中で流れた街頭インタビューで初めて知った。

戦後補償問題に対して、戦争中日本が如何にアジアで悪事を働いたか、しかもそれに対して何の償いもせず如何に罪の意識に欠ける国民であるかと口走る人もいる。しかし日本は、三百万柱の英霊や原爆などで多数の尊い命を失い、又戦後も千六十八人のかけがえない人(戦犯)の命を以つてお詫びや償いを済ませ

これらの人々の存在を無視したかの様な戦後補償論が取り沙汰されているのを見聞きするにつけ、私はいたたまれぬ思いがする。

歴史を知らない政治家たちは、戦争の認識について、政争の具とするばかりで、しっかりとした歴史的検証をする者などまるで存在していない。

三年前シンガポールを訪れた時は、シンガポール陥落五十周年に関する展覧会が開催されていた。

今年も又、敗戦五十年の年にシンガポールを訪れました。

観光名所のセントーサ島の博物館には、陥落時と敗戦時の降伏調印式のロウ人形が在り、「アジア太平洋戦争で日本は中国やアジア諸国を侵略し、二千万もの人を殺した。いまだに戦争の傷あとはいやされてない」という。悲惨な歴史を今でも教えています。

帰国後すぐ靖国神社に参



セントーサ島博物館

拝した。

そこには、良心だけでは行動出来ずに国家が自分は何を望んでいるかという事を判断して、お国の為に自分の道を選ばねばならなかった英霊が、お祀りされているのだという思いがした。

それは異なる歴史認識を感じた為だろうか。

国家の過ちは国家間で政治的あるいわ経済的に解決すべきで、国家の責任と個人の良心とを混同すべきで

なく、一方が全面的に正しく他方が全面的に悪いという歴史観は不当であり不自然である。

先の戦争を個人個人の狭く断片的な知識や経験に基づいて、戦争を論じるのではなく、客観的な歴史の検証を行うべきである。

そして忘れた人は思いだし、知らない人は勉強すべきである

異なる歴史認識を感じて、そう、う思いに至った。

## 役員、氏子総代改選

五月六日氏子総代会、五月十二日崇敬者総代会を開催し、任期満了に伴う責任役員改選を行った。尚、氏子総代もこれに先立ち各地区に於いて総会が開かれ改選が行われた。

その結果、左記の方々が選ばれ委嘱式が行われた。任期はそれぞれ三年である。

記

平成七年六月一日

責任役員を委嘱します。

細田 純市、田中 静

植野 章一、本田 保

鬼東 達朗、波越 重利

和田 皓、品原 和男

同五月六日

氏子総代を委嘱します

竹山 真次、鬼東 健三

長友 治義、鬼東 昌治

江口 義雄、松田 明

森 今朝生、関屋寿美男

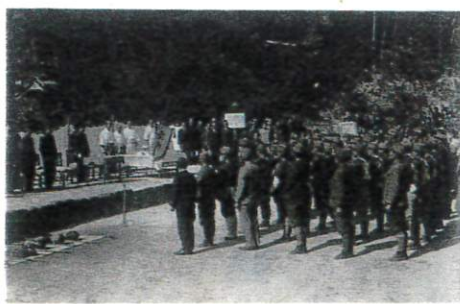
平下 修三、岩田 義信

湯浅 勝好、水元 福美

## 今昔

左の写真は五十年前の剣道大会の写真である。

現在の様に規模も大きくはなく、選手の数も少ないが優勝旗を前にした選手の気持は今も昔も変わらないであろう。



## 国

## 旗

主典 中原 慎太郎

国旗は古く、武田信玄、上杉謙信又は徳川家康も日の丸の印を使用したと伝えられている。

そして寛永十一年には日の丸を幕府の印とする事が定められました。

嘉永六年浦賀にペリーが黒船で来日しましたが、以前にも多くの国々が、来日して来ました。その為この事件をきっかけに国旗の百科辞典ともいえるべき「万国旗章図譜」が出版されました。

江戸時代幕府が鎖国政策をとり日本人の海外活動が全て禁止されていた為、国旗は必要としなかったのです。然しペリー来日等があり、幕府も大船建造禁止令を解除しました。

そこで薩摩藩主島津斉彬を筆頭に、外国船との違いをはっきりする為、日本の船の印として「日の丸」の必要性を幕府に訴えました。幕府の役人達はどの様に

するか決めかねていました。というのも前記にある様に幕府の印としての「日の丸」を主張しており又、徳川家慶の保母歌橋の局がこれをきっかけに水戸、薩摩の勢力が大奥に入るのを恐れた為とも伝えられています。

「日の丸」が正式に総船印として公布されたのは安政元年の時でした。安政二年には薩摩藩の西洋式蒸気船「昇平丸」が総船印制定後初めて「日の丸」を掲げました。

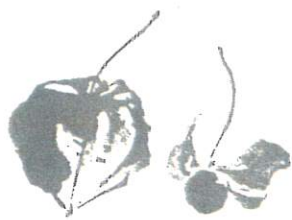
海外で初めて「日の丸」を掲げたのはワシントンのブロードウェイで、勝海舟を船長とした海臨丸の使節一行でした。そして明治三年に「日の丸」を国旗という言葉で表し、使用法や寸法等が公布されました。

昭和二十年八月十五日、第二次世界大戦が終結し、連合軍占領下における国旗掲揚については個人的許可を得なければなりません



したが昭和二十二年五月三日日本国憲法が施行される前日に皇居、国会議事堂、最高裁判所、首相官邸の四箇所に国旗の掲揚が許可され昭和二十三年には国民の祝日は許可なしでも掲揚してもよいとなり、翌年二十四年には無制限に掲揚が許可され現在に至ります。

「日の丸」の形の意義は日の丸が平和を表し白地が自然、太陽に感謝する真心、愛情を表しています。現在、軒先に国旗を掲揚している家庭をあまり見かけません。日本人として誇りを持ち、せめて祝日の日だけでも国旗を掲揚して頂きたいと感じます。





# ギョボク奉納

一昨年の台風により境内の樹木が倒木し、鶉戸を生息北限とするツマベニチョウが激減した。

ツマベニチョウは日本産シロチョウ科最大級で羽の大きさは約九センチ程、インド、東南アジアなどに広く分布し、純白と鮮紅色の鮮やかな美しいチョウである。



奉納 鹿児島県山川町 室屋 正樹氏

幼虫は、ギョボクの葉しか食わず、繁殖にはどうしてもギョボクが必要。

この為、宮崎植物研究会 宮崎昆虫同好会の協力により、三月二十日ギョボク（フウンソウチョウ科）百本が境内山林に植樹された。

# 第三授与所、休憩所完成

昨年十一月二十四日に地鎮祭を執り行ない、新築工事を進めていた第三授与所の竣工祭が三月二十七日、宮司を始め責任役員、工事関係者多数参列のもと厳粛に斎行された。

これまでの第三授与所は老朽化、塩害等により損みがひどく、又隣には長椅子



を置いた休憩所があったものの屋根が無く、雨天時や真夏日には参拝者の不評をかっていた。この為、授与所跡地を休憩所に、授与所を上下観光駐車場より交わる参道の一角に建設されたものである。



# 新職員紹介

巫子 森山 智恵  
生年月日

昭和五十一年八月十九日  
最終学歴

日南高等学校家政科



# 編集後記

昨年から今年にかけて当宮は文化財指定や授与所・休憩所新築など、職員一同新たな気持ちで神明奉仕を行っていている事は外でもない。

尚十一月には日南市で開催される「豊かな海づくり大会」に両陛下がご臨席される大変喜ばしい年でもあります。

この様に本年からは職員一同が今までより一層の努力をしなければならぬ年である。

(河野)